

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換終了報告書

所属(本学)	工学部金属工学科		
現在の学年	学部3年		
留学先国	アメリカ	留学先大学	ワシントン大学
留学期間	2014年9月10日～2015年3月20日		

① 留学先大学の概略

ワシントン大学(The University of Washington)は1861年に創立された、ワシントン州シアトルに本キャンパスを置く州立総合大学であり、規模は太平洋北西部で最大である。通称はUW(ユーダブ)。学部の他に16の大学院を有し、学部では1,800、大学院では370の科目が履修可能であり、学生数は2014年現在約4万5千人(学部生約3万1千人、大学院生約1万4千人)。大学カラーは紫と金で、マスコットキャラクターはHusky(シベリアンハスキー)。

② 留学前の準備

1年生の頃から、卒業を遅らせずに半年以上の長期留学をしたいと考えていました。しかし金属工学科のカリキュラムは、卒業まで常に何かしら必修の授業・実験があるように組まれていたため、2年後期に3年後期の授業や実験を早めに取り、3年前期終了時には卒業単位を取り終わるように計画を立て、3年後期の半年間留学に行きました。そして、研究室配属決定会(金属の場合は4月)に間に合うように帰国し、研究室に所属しました。

留学全般: まずは留学フェアや My Study Abroad、米国大学院学生会による説明会等に参加して色々な留学経験者の話をきき、留学に必要な準備や、自分のしたい留学のイメージ・留学したい理由を明確にしていきました。UWへの派遣が決まってからは、主にUWの公式ホームページで情報を集めました。その他、UWに留学している・していた人のブログを探してチェックしたり、東工大の派遣交換留学生の体験談を読んだりもしました。また、少しでも不明な点があればUW側の交換留学担当の方や、あちらの学科のアドバイザーの方にメールで質問していました。東工大にTiROPやYSEP等で留学に来ていたUWの学生何人かともFacebook等を通じてローカルな情報を教えてもらったりしました。彼らとは、留学生交流イベントに参加して偶然出会ったり、TiROPプログラムを担当している方に紹介して頂いたりして知り合いました。

英語: まず大学主催のTOEFL-ITPを2年の8月に受け、そのスコアを2年の9月の派遣交換の応募に使用しました。学内選考に通った後は、2年の1月にTOEFL iBTを受け、そのスコアをUWへの本応募(2月中旬頃締切、学部生は83点以上、大学院生は92点以上必要)に用いました。英会話としては、出発前に海外ドラマや海外Youtubeのチャンネルをよく観ていました。

ビザ: 6月の半ばに申請および面接を受け、6月末までには取得できました。申請に必要なAcceptance LetterやDS2019等の書類一式が6月中旬になってやっと届いたためです。

住居: UWへの本応募の際にOn-campusの寮を希望するか否かの選択があったので「希望」を選択していたところ、6月下旬にUW HFS(Housing and Food Services)から案内のメールがあり、それに従って寮に申請しました。UWには沢山の寮があるため選ぶのに時間がかかりました。寮は希望者が大変多く倍率も高かったようで、部屋の割り当てが確定したのは7月末でした。私にとっては学内の寮の方が、手続き等が楽なうえ治安としても安心な気がしたのでそうしましたが、いざ留学してみると、同じ日本人交換学生でも学外のアパートを自分で確保している人もみられました。その方が安かったり、希望した学寮の枠に漏れてしまったりしたためのものでした。

研究室: 今回の留学の目的の一つは、将来学位留学をしたいかどうかを考えることだったので、あちらの研究室はぜひ見てみたいと思っていました。そこで、自分の学科の先生にUWの教授をご紹介いただき、2クオーターの留学期間のうち最初のクオーターはその方の研

研究室で実験手伝いをさせていただいていました。正式な研究室所属ではなかったので特に手続きはいりませんでした。先生とのメールのやり取りで具体的にどういふことをさせてもらうか決めてから行きました。こうしたコンタクトは3年前期になってから始めました。

その他:私は9月に始まる秋クォーターから留学したのですが、秋クォーターの履修登録が6月下旬には始まってしまうので、Acceptance Letterが届いたと思っただけで授業履修について考えなければならず、せわしなかったです。履修登録をする前にもいくつか条件を満たさなければならなかったもので尚更でした。条件とは例えば、麻疹の予防接種を今までに2回以上受けたことの証明書をメール提出し受理されていなければならない、等です。どの授業も収容人数が決まっており、人気の授業は登録期間が始まるとすぐに埋まってしまう。履修登録に用いるMyUW(東工大ポータルみたいなもの)のアカウント作成や上記の条件クリアなど、やることも多く忙しいですが、先手必勝です。

③ 留学中の勉学・研究

1クォーター目は前述のとおり研究室での実験手伝いがあったため、ピアノ以外は教授に指定された授業だけをとっていました。3年生で金属工学専攻の私が、B4~M1向けのポリマーの授業を取るのは無謀なように思えましたが、実際、毎週出る重い宿題に悲鳴を上げていました。本当に大変ではありましたが、何より3か月間諦めなかったことで自信も、新たな知識もつきました。2クォーター目は、本来の3年生という身分に戻って、300番台の授業を主にとり、また言語学部で開講されている、ノンネイティブ向けのアメリカ英語についての授業や建築入門など興味を惹かれたものも聴講していました。

1クォーター目(Autumn Quarter 2014:9/24-12/12)

CHEM E 484 Optoelectronic and Electronic Polymers	(3単位)
MSE 475 Composite Materials	(4単位)
MSE 497 Undergraduate Research	(8単位)
MUSICP 321 Piano	(3単位)

2クォーター目(Winter Quarter 2015:1/5-3/20)

MSE 322 Kinetics of Microstructure Evolution	(4単位)
MSE 351 Electronic Properties of Materials	(3単位)
MSE 520 Seminar	(1単位)
MUSICP 321 Piano	(3単位)
SPHSC111 American English Sound System (聴講)	
ARCH110 Appreciation of Architecture (聴講)	

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

アメリカ人の友達に誘われて和太鼓のサークルに参加していました。和太鼓サークルとはいえど純日本人は私しかおらず、他は日本文化が好きなアメリカ人や日系アメリカ人などで構成されていて、彼らの「日本文化観」を垣間見ることができて非常に興味深く楽しかったです。また、UWにはせっかく音楽学部ピアノ学科があるということで、2クォーターともピアノの個人レッスンを履修していました。追加の授業料もオーディションも必要でしたが、ピアニストの教授に1対1で習える機会などなかなかないため相当価値がありました。何度か舞台にも立たせてもらえ、またとない経験ができました。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

アメリカでは、レジの人とのカジュアルな会話も、授業で隣の席に座ったら始まる自己紹介も、すべて当たり前の光景です。この文化が日本にはないため、最初のうちは自分からなんて到底できませんでした。しかし、「Leave my comfort zone」を常に心がけていたら次第に慣れてゆき、いつでもどこでも、自分から話しかけることも話しかけられることも全く苦でなくなりました。ある授業で席が隣り合ったのがきっかけでできた友達とは最終的に、留学が終わった今でも一緒に来夏の旅行計画を立てるくらいに仲良くなれて、自分の殻の中に閉じこもっていないでよかったと実感しています。

⑥ 留学費用

渡航費:マイルを利用したので、かかったのは燃油サーチャージ分のみで6万円程度。

生活費:寮だったので光熱費などは一切なく食費のみで月約3万程度でした。

住居費:月約8万程度。

保険料:プランHで7万5千円程度。

奨学金:業務スーパードリームジャパンという財団から月15万円いただいていた。

その他、ビザの発行に3万5千円程度。

MicroFridge(電子レンジと冷蔵庫)のレンタル料2万5千円程度。

U-PASS(バス乗り放題)とInternational Student Feeで各クォーターにつき1万5千円程度。

U-PASSはUWの学生ならバス利用の是非に関わらず払わなければならないものでした。

⑦ 留学先での住居

②の留学準備に関する項目に書いたように、寮はUWから届いた案内メールに従って申請しました。私はHansee Hallというキャンパスの北側にある寮の一人部屋を割り当てられました。学寮(On-Campus)で一人部屋があるのはキャンパス西側のSteven's CourtとHansee Hallくらいです。Hanseeは最も古い寮で、4棟あり、各棟のラウンジにグランドピアノがあるような優雅でアンティークなところで大変気に入っていました。難点といえば壁が薄かったりキッチンが全棟の中で1つしかなかったりしたことでした。また、キャンパス北側のGreek Row(Fraternity houseやSorority houseが密集している地帯)に直接面しているため、秋学期が始まる直前のRush week(新歓期)には野外パーティの賑やかな音がよく聞こえてきていました。これもある意味で文化の体験ですが、うるさいといえぶうるさかったです。Greek Rowに面しているからという理由でHanseeを嫌がる人もいたようですが、学期が始まれば静かになったので問題ありませんでした。

⑧ 留学先での語学状況

出発前、リスニングはしていたのにスピーキングの準備にはなぜか力を入れていなかったもので、初めの1カ月弱は「聞きとれているのに言いたいことが言えない」状況に陥り、焦燥感を感じていました。寮は壁が薄く筒抜けだったので、シャドウイング等声に出すスピーキング練習はできません。代わりに、毎晩話し言葉の英語で少しずつ日記をつけていたら、その後日常会話で困ることはほぼなくなりました。

⑨ 単位認定、在学期間

ピアノ以外の授業は単位互換をする予定です。

在学延長をしなくていいよう履修計画を立てていたため、予定通り卒業します。

⑩ 就職活動

大学院進学するのでまだしていません。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

学内カフェテリアの食事が口に合わなかったことです。自炊をしようにも寮の共同キッチンが自室から遠く、頻繁にはできませんでした。また、学寮に住む条件として、学内カフェテリアや学内スーパーマーケット・売店でしか使えないMeal Plan(東工大の学食パスのような、デビットカードシステム)を一定額以上購入しなければならなかったのですが、その量が私にとっては正気の沙汰とは思えないほど多く、しかも返金不可だったので、使い切るのが大変でした。最終的にいろんな人に協力をお願いするほかありませんでした。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

少しでも留学してみたい希望があるのなら、先手必勝、早めに行動を始めて早すぎることはないと思います。とくに来年度教育改革が現実になれば、皆にとってより留学しやすい環境が整うことになるでしょう。今は東工大自体が変動的な時期で、堅固な留学計画を立てることなど難しいかもしれませんが、ぜひ積極的に学科の先生方や留学した先輩方などに頼って、活用できるものはフル活用して留学を叶えてください。大学生のうちに留学して損することは決してありません。意志さえあれば、行くだけで、いろいろな面で大きく成長できることと思います。